

『粗にして野だが卑ではない』



株式会社エフエム山口

代表取締役

ふじい まさひみ

藤井 正史

山口商工会議所3号議員・常議員

1959年大阪府生まれ。小学4年生の時に山口県徳山市に引っ越し、高校卒業までを徳山で過ごす。日本大学芸術学部放送学科に進学し、放送に関わるノウハウを学んだ。大学卒業後は住宅機器メーカーでの営業職を経て、(株)エフエム山口の第一期社員として入社。とにかくラジオ局のスタジオが好きで、今でも、沢山の放送機器に囲まれている時が落ち着く。

〔企業概要〕

株エフエム山口

住 所：山口市緑町3-31

T E L：083-923-2100

従業員数：14名

藤井社長のプロフィールについて教えてください。

高校卒業までを徳山で過ごし、日本大学芸術学部放送学科へ進学を機会に上京しました。とにかくラジオのスタジオで機械に囲まれているのが大好きで、在学中も、ずっと放送局でアルバイトをしていた程です。学科内で専門コースに分かれるときには、迷わず音声技術の専門コースを選びました。



社屋外観

放送局への入社を希望して就職活動を行いましたがあまくいかず、1982年、システムキッチンなどの厨房機器を製造するサンウエーブ工業(株)(現在は株LIXILに併合)に就職し、営業職に就きました。

当時、東京近郊にどんどん建設される高層集合住宅に、厨房機器を納入していました。10tトラックを何台も使って運んできた器機を、我々営業マンが背負って設置する階まで運び、取り付け作業まで行っていました。まだエレベーター設備が稼働していない建物に設置するのは大変でしたが、若かったですし、体力もありましたから何とかできました。当時は何でもやっていましたね(笑)。

『粗にして野だが卑ではない』をスローガンにしておられますね。

ご存知の方も多いと思いますが、石田禮助の生涯を描いた城山三郎の著作のタイトルです。石田禮助は数え78歳で当時の国鉄総裁に就任し、彼が国会に初登院した際に述べた言葉で、「抜けているところもあるだろう。洗

練されず粗野に見えるところもあるだろう。しかし、考えには筋が通っており、卑怯なことはしていない。」という意味です。自分自身、抜けているところもあるだろうし、洗練されてもいけないけれど、卑怯な生き方・やり方はしない、この言葉を掲げて頑張りたい、と思ってあげさせていただきました。

エフエム山口に入社されたきっかけはなんだったのでしょうか。

営業マンとして3年間勤務した頃、父から「山口県内に、新しいFMラジオ局が開設されるらしい」と電話がありました。当時、山口県内ではラジオと言えばNHKと山口放送でFMはNHKだけでしたので、その話を聞いたときには驚きましたが、1985年春に入社試験が実施されました。私はもちろん受験し、合格。同年8月1日に採用され、(株)エフエム山口の社員となりました。

エフエム山口について教えてください。

全国で20番目のFM局として、もちろん山

山口県では初のFM局として、1985年4月1日に会社が設立されました。当時はまだ本社は建設中で、「準備室」として、大手町にあるKRY山口支社4階の会議室を間借りしていました。本当に「何も無い」という状態だったので、CDを揃えるところから始まりました。担当の人が、大きなCDのリストブックみたいなものをめくりながら、どのCDを購入するのかチェックしていました。

10月に現在の建物が完成し、12月1日に本放送を開始。初めて試験放送を流したとき、みんなで駐車場に停めている車まで走りました。カーラジオから放送音声が聞こえたとき、全員で涙を流して喜びました。あのときの感動は忘れられません。

エフエム山口に入社し、ずっとやりたかった仕事に就けたということでしょうか。

やっと番組の制作ができると思っていたのですが、担当はまたも「営業」でした。当時、同期の社員と共に山口県内を走り回って営業しました。「エフエム山口です。ラジオでCMをおやりになりませんか!」と営業するわけですが、「エフエム?なんでNHKが広告をとるのか」と言われたこともあります。当時、FMラジオといえばNHKという時代だったので、立ち上がったばかりのFM放送局を知る人は殆どおらず、「エフエム山口とはどのような会社か」と、そこから説明する毎日でした。営業ばかり担当しているのですが、私自身は口下手で、人見知りで、営業に向いているとはとても思えないのですが…。

結局、希望していた番組制作をやらせてもらえず、1987年、東京支社へ転勤になりました。東京支社は、当時TFMのビル内にあり、全国のJFN各局(現在は38局)の支社が集まっています。私は、1998年までの11年間、東京支社で営業として勤務しました。

11年も連続で東京支社に勤務した人間は、全国を探しても少ないと思います。東京で、私には全国各局に沢山の同士ができました。何か困ったことや、情報交換をしたいときには、電話一本で話を聞くことができる仲間が全国にいてくれるというのは本当に心強いし、私の財産でもあります。

1999年、本社に戻ってきましたが、その時既に私は40代。編成担当となり、放送番組全体を統括する立場になってしまい、番組制作の現場には直接携わることのないまま、今に至ります。

情報が溢れる現在、改めて「ラジオの魅力」とはなんでしょうか。

我々が若いころ、ラジオは勉強机の上で音楽を聞かせてくれました。寝るときは枕元で囁いてくれました。現在ではインターネットが普及し、パソコンやスマートフォンを使っていくらかでも最新の音楽情報を得られるようになっていますが、ラジオは聴いてくれる人にもいつも寄

し、勉強し、人と話して、どのくらいの気づきを得ることができるか。しっかりとした情報を得て、自分で学ぶからこそ、番組のクオリティが上がり、リスナーからの信頼も得られるのです。

「発信する」立場から見て、山口市はどのような印象でしょうか。

山口市は、「奥ゆかしい」、「隣人を慮る」という印象です。人が温かく親切で、観光客の方々も、人に接し、感動して帰られると思います。

しかし、こんなにも歴史や自然の観光資源に恵まれているのですから、もっと発信して、県内外の方々に魅力を知って頂く必要があります。

現在、JFNでは、地方局で制作した番組をJFN各局で放送する取り組みを進めています。明治維新150年に向けて、エフエム山口でも、全国に発信できる番組の制作に取り組みます。私たちは、全国に発信できるネットワークをもっていますので、どんどん活用していただきたいと思っています。私たちも、地域を盛り上げるために、協力は惜しみません!

今後のオススメ情報などを教えてください。

昨年12月1日、エフエム山口は開局30周年を迎えました。これを記念して、「オレンジ★みるふい〜ゆ」というアイドルグループを作りました。山口県的美少女として、地元を盛り上げるために頑張ります。今後の活動にご注目下さい。4月14日のオレンジデーには、モンローとコラボレーションして、彼女たちをイメージしたスイーツを発売する予定です。

また、3月1日から東京・大阪・福岡でV-Lowマルチメディア放送「i-dio」がスタートしました。これまで、アナログTV放送で使っていたV-Low帯を活用してFMラジオ局が新たに放送を始めるものです。デジタル放送になりますので、高音質で音楽を放送したり、15分先の天気をお知らせしたり、災害時の緊急放送に活用したり、できることの幅が大きく広がります。中国地方では、まず広島からスタートすることになるでしょう。まさに、ラジオのその先へ…、これから、どんどん面白くなってきます!

り添っています。一緒に笑い、泣き、歌い、感動を共有できるメディアだと思っています。よく「災害時に強いメディア」と言われますが、平時においてもあなたのそばにいたい。そう思っています。そのためには、パーソナリティの発信力が重要であることは間違いありません。

当社の番組で活躍するパーソナリティ達には、「自分自身が1週間何をして過ごしたか、どんな人に会ったか。それで次回の番組が決まる」と話しています。ラジオでは、台本というものがあまり存在しません。例えば、ゲストが何を話すか、その日にならなければ判らない部分もあります。

音だけで全てを伝えるラジオは、テレビと違って目から入る情報が無いため、話す人間そのものが番組に表れます。自分自身が経験



30周年を記念して結成した「オレンジ★みるふい〜ゆ」。皆様の応援を、よろしくお願い致します!